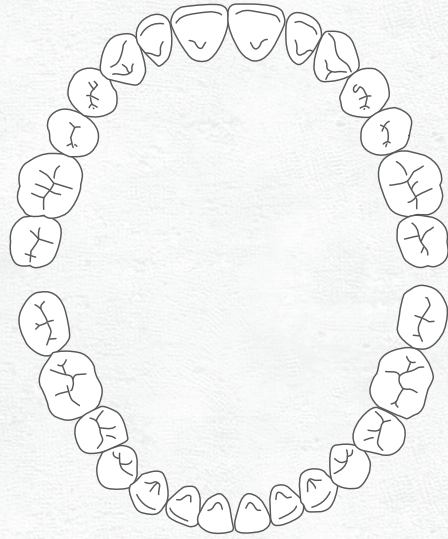


ブラッシングレシピ

お口の中をチェックしましょう

年 月 日



コメント

Q.1 ハミガキ剤は使った方が良い?

A ハミガキ剤には歯の汚れをとる清掃効果に加えて、むし歯や歯周病予防、口臭予防のために薬用成分を配合したものがあります。お口の状態にあわせて選ぶことで効率よくブラッシングが行えます。

Q.2 ハミガキ剤の安全性は?

A 一部飲み込んだ場合や長期間使用した場合の安全性、および歯肉、舌、口腔粘膜(口腔軟組織)や歯(歯牙硬組織)に対する安全性には十分な配慮がなされています。使用中に発疹、かゆみ等が現れた場合は使用を中止し、医師に相談してください。

Q.3 デンタルリンス(液体ハミガキ)を使うと、ブラッシングしなくてもいい?

A デンタルリンス(液体ハミガキ)の洗口だけではプラーク(歯垢)を落とすことはできませんので、必ずブラッシングを行ってください。

お口の状態に合わせてお使いください。

ペースト

〈むし歯予防〉



パトラー
デンタルケアペースト
(フッ素1450ppm配合)

〈歯肉炎・歯周炎予防〉



パトラー
CHXペースト



ニューソルトA

〈美白〉



オーラツー
ホワイトキーペースト

液状・液体

〈知覚過敏の方に〉



ガムプロズ デンタルジェル
センシティブ

〈歯肉炎・歯周炎予防〉



パトラー デンタル
リキッドジェル



ガムプロズ デンタルリンス
レギュラー/ノンアルコール

こども(ペースト)

〈むし歯予防〉



パトラー デンタルケアペースト こども



グレープ
フルーツ

当院の歯科医師・歯科衛生士にご相談ください。



セルフケアのポイント

ハミガキ剤編

お口の健康は自分で守る!



ORAL BOOK

サンスター株式会社 〒569-1195 大阪府高槻市朝日町3-1

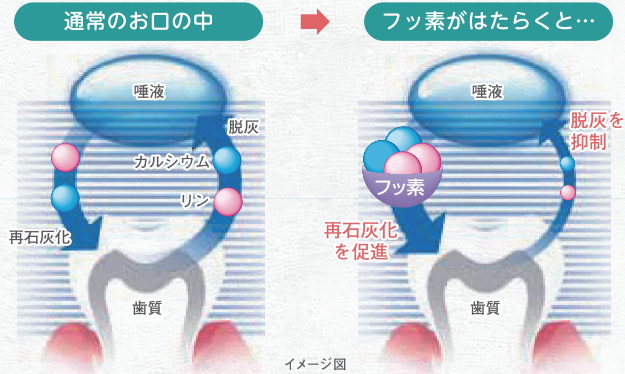
お客様相談室 ☎0120-008241

2017.12

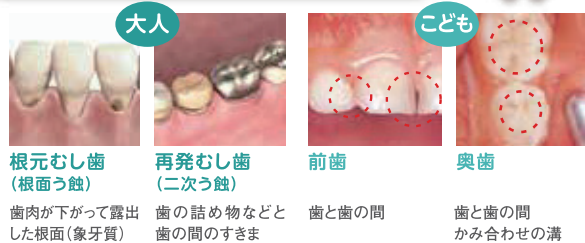
SUNSTAR

むし歯予防には欠かせない成分 フッ素の効果

歯は、唾液や歯垢(プラーク)との間で、カルシウムの溶け出し(=脱灰)と取り込み(=再石灰化)を繰り返しています。フッ素には、この再石灰化を促進して歯質を強化し、一方、酸の産生を抑制することで脱灰を抑制してむし歯を予防する効果があります。



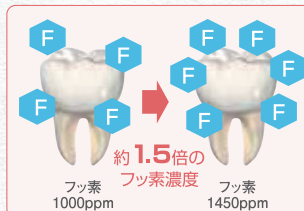
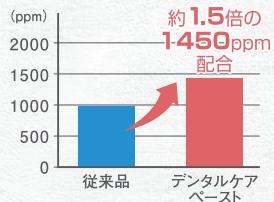
むし歯になりやすいところ



パトラーデンタルケアペーストは…

*最大濃度のフッ素1450ppm配合 *サンスターハミガキ内

1回あたりのフッ素使用量が増えるので、むし歯リスクの高い方へおすすめです。



*1000ppm以上のフッ素配合ハミガキ剤は、6歳未満のお子様へのご使用はお控えください。イメージ図

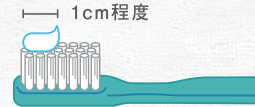
ハミガキ剤の 効果的な使用方法

使用量

年齢によってオススメの使用量は違います。年齢に合った使用量をご確認ください。

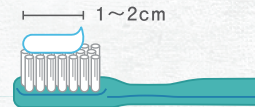
6~14歳

フッ素 ~1000ppm



15歳以上

フッ素 1000ppm ~ 1500ppm



すすぎ

少量の水でお口をすすぎましょう。

※ブラッシング後は30~60分程度
飲食を控えましょう。



爽快感に要注意!

◆ “みがいている” と “みがけている” は
違います。

すみずみまでしっかりブラッシングができていなくても、ハミガキ剤を多く使うことにより、歯を**みがいた気分**になりがちです。

爽快感にまどわされず、すみずみまでしっかりブラッシングを行いましょう。

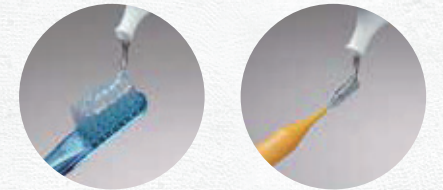
ハミガキ剤をつけずに時間をかけて丁寧にブラッシングした後に、ハミガキ剤を使って再度ブラッシング(仕上げのブラッシング)をするのもおすすめです。



用途に合わせて使い分けよう ハミガキ剤の種類

◆ ハミガキ剤の形状

- ペースト(練)
一般的に多く使用されているペーストタイプ
- 液状(歯間ブラシにもおすすめ)
ペーストに比べ、流動性のある液状タイプ



- 液体
水とほぼ同じ粘性の液体タイプ
※液体タイプは一般的に清掃剤(研磨剤)は配合されていません。

同じ形状であっても清掃剤(研磨剤)や発泡剤が無配合のものや最小限におさえた(低研磨・低発泡)ものなどさまざまなタイプがあります。

◆ ハミガキ剤にはさまざまな効能・効果があります。(医薬部外品)

- むし歯を防ぐ
- 歯石の沈着を防ぐ
- 口臭を防ぐ
- 歯周病(歯肉炎・歯周炎)を防ぐ
- 歯を白くする など

※有効成分によって、効能・効果が異なります。

お口の状態などに合わせてお選びください。



わからないことがある場合は、歯科医師や
歯科衛生士にご相談ください。